

シンガポールの新しい教育課程と初等美術教育の方向

福田 隆眞

On the Orientation of Primary School Art Education Based
on the New Curriculum in Singapore

FUKUDA Takamasa

(Received December 17, 2003)

キーワード：シンガポール、初等教育、教育課程、美術教育、教科書、教材

はじめに

シンガポールは近年、教育課程の改訂を行い新しい世界への方向性を打ち出している。美術教育では2001年に中等教育、2002年に初等教育の新しい教育課程を公布している。そして、それらに基づいて現在、年次計画で教科書が改訂されている。現段階では初等教育が3年次まで、中等教育が前期中等教育と後期中等教育の一部分まで教科書が編纂され使用されている。

シンガポールは多民族多文化社会である。1965年の建国以来シンガポーリアンとしてのひとつのまとまりある文化の形成を目指している。現在、約380万人の人口を擁し、中華系77%、マレー系14%、インド系8%からなっている。急速な経済的成長を遂げ、アジアの中の近代国家となっている。

教育課程改訂以前の美術教育の内容は国民文化の継承と技術・技法の習得という視点が重視されていたが、新しい教育課程では国民文化の習得から個人の創造性教育の重視に視点が移行している。

本稿ではこうした教育課程の改訂による美術教育の方向性を、教育課程の内容とそれを具体化した教科書の教材を見ながら述べる。

1 初等美術教育の新しい教育課程

シンガポールの初等教育では1学年から4学年までを基礎段階として位置づけている。5, 6学年をオリエンテーション段階としている。基礎段階での教科は、英語、母語、道徳、数学、健康教育、体育、音楽、社会科そして美術工芸がある。3, 4学年では理科が加わる。

2002年に改訂された教育課程では初等教育の美術は、教科の紹介、目的、学習成果、教科の内容、指導法、評定について以下のように示している^(注1)。

(1) 教科の紹介

美術は子どもの発達、成長に重要な役割を果たしている。視覚美術を通して、子どもは視覚的世界を探検したり、思想や感情を伝達したり、彼らのおかれている環境についての

概念形成をしたりする。新しい美術工芸の教育課程では幅広い美術教育の分野を含み、子どもの様々な能力と興味を満たすようにしている。全人的で学際的な学習方法を含んでいるのである。新しい教育課程では、作品制作、鑑賞、平面・立体と電子メディアを通して、児童の知識、技能、価値観を促進する。

(2) 教科の目的

教科の目的は、児童の見る、作る、鑑賞する能力を発達させることにある。また、中等教育での美術の基礎を育成するものである。さらに美術を生涯にわたって興味を持つようにすることにある。この目的の達成のためには「見る」「作る」「鑑賞する」の要素がある。これらの要素は児童に環境を観察し、アイデアを生み出し、作品を作り、社会における美術の役割に価値を抱くような機会を与えるものである。

「見る」ことは環境を観察し、調査し反映することを含んでいる。児童の環境と経験との関係に反応するときこの学習が生じる。「作る」ことにおいて、児童は与えられたテーマに基づいていろいろな媒体で作品を作り出すことで、アイデアを生み出し表現する。「鑑賞する」ことでは、児童は自分や友達の作品について話し合うことで適切な美術用語を使うことを学習する。その過程で社会における美術の役割を理解し評価する。

(3) 学習成果

基礎段階では学習成果を次のように定めている。

「見る」：ものについて生き生きとした好奇心をもつ。

身の周りの自然、もの、美術作品を感覚的に知ることを伸ばす。

簡単な視覚的情報を集める。

視覚的情報を組織する。

「作る」：与えられたテーマでアイデアを出す。

美術媒体の使用法をいろいろな方法で試してみる。

平面、立体、電子メディアを操作する基礎能力を身につける。

美術の要素を理解した美術作品を創造する。

美術作品を通して考えや感情を伝える。

「鑑賞」：美術活動を楽しみ積極的な態度を身につける。

基礎的な美術用語を使って話し合う。

シンガポールの歴史や文化遺産の美術を鑑賞する。

シンガポールの美術に誇りをもつ。

さらに5、6学年のオリエンテーション段階では次のように定めている。

「見る」：ものについて生き生きとした好奇心をもつ

自然物や人工物に対して視覚的触覚的特質を知り、言葉で表現する。

視覚的要素がアイデアを伝えるのにどのように使われているかを理解する。

簡単な視覚的情報を集める。

視覚的情報を組み立てる。

「作る」：与えられたテーマでアイデアを創出する。

美術の材料を調べて使う。

平面、立体、電子メディアを使いこなす基礎的能力を習得する。

美術作品を創造し、美術の要素とデザインの原理を理解する。

美術作品を通じてアイデアや感情を伝える。

「鑑賞」：美術活動に対して楽しみ、積極的な態度を身につける。

自分や他人の作品について発表することに自信をもつ。

シンガポールの美術を歴史と文化遺産として鑑賞する。

美術の多様性を認識して他人のアイデアを尊重する。

シンガポールの美術に誇りをもつ。

(4) 教科の内容

内容は3つの主要要素からなっている。「主題」「実践」「鑑賞」である。これらの要素は全体的な美術体験を伴って児童に提供されるものである。

① 主題

主題は児童の美術活動に全体的な流れを与えるものである。それは児童に美術活動の楽しみと意義を与える。主題は広義には次のものである。

- ・人物と静物
- ・興味ある対象
- ・場所と出来事
- ・経験
- ・伝統と文化

② 実践

美術の実践は異なっているが2つの相関ある側面を含んでいる。

- ・美術の要素とデザインの原理
- ・媒体（メディア）

この2つである。

美術の要素とデザインの原理は美術の言語（視覚言語）を形成し、美術制作の面で使われる。児童は以下のような美術の要素とデザインの原理を初等教育が修了するまでに教えられるべきである。

美術の要素	デザインの原理
点	バランス
線	対比
形	調和
形態	運動
色	パターン
テクスチャー	多様性
空間	

メディアは児童が多様なアイデアや感情を表現するユニークな特質を持っている。児童はいろいろなメディアを使うことで、探求することを奨励され能力を獲得する。児童が多様なメディアで表現するために、初等教育修了までに以下の「美術の核」となるものが教えられるべきである。

描画、絵画、コラージュ、版画（印刷）・・・平面

彫刻、アッサンブラージュ・・・・・・・・・・・・・立体

③鑑賞

鑑賞は児童が美術作品を見て話し合うときに生まれる。それは児童が美術を理解し、社会における美術の意義を理解するのに重要な役割を果たす。鑑賞を通して児童は文化を認識しアイデンティティーを発展させる。

(5) 指導法

新しい美術工芸のシラバスでは指導法を含んでおり、アイデアの発展と技術・技能の獲得を強調している。指導法は、探求、表現、評価の3つのプロセスを中心としている。児童に全体的な美術体験を提供するために、これら3つのプロセスは美術の授業計画を作成する際に用いられるべきである。探求、表現、評価のプロセスは固定的なものではなく、美術制作の全ての段階でダイナミックに使われるべきである。適切にこれらを使うことにより、授業を充実させ学習成果を達成することができるのである。

①探求のプロセス

探求は冒険をする基本である。美術では児童は独自の作品を作り出すために、様々なメディアの特性やアイデアを調べる必要がある。そのために以下のような積極的な活動がある。

- ・アイデア創出のためのブレインストーミング
- ・視覚的情報の収集
- ・観察したことを記録する
- ・メディアと技術を使って実験する
- ・討論する

②表現のプロセス

児童は、知識、アイデア、感情などを表すために美術作品を作る。そうした表現は以下のように明らかにされる。

- ・スケッチ
- ・作品の完成
- ・書き取り
- ・表示
- ・ロールプレイング

③評価のプロセス

評価を通して児童は可能な解決や解答を見なおしたり、変えたり、考え直したりして、学習経験に反映される。評価は児童が次のような時に明らかにされる。

- ・自他の作品を見たり話したりする時
- ・美術制作に関する討論をする時

美術の指導法は教室を超えても発展すべきである。教師は美術の授業を高めるために、美術館、文化的催し物や文化的な場所などに児童を連れて行くことが奨励される。これらの活動は自国の文化遺産を理解するのに役立つ。

(6) 評定

評定は教師が学習計画の成果を評価することに役立ち、児童の学習内容について再考す

る機会となる。評定では児童の学習の全ての側面を深く見る必要がある。美術の制作過程は完成作品と同様に重要なものである。そして評定は包括的である必要があり、探求、表現、評価の3つのプロセスを扱うべきである。評定されるべき技能は以下である。

- ・情報の収集
- ・アイデアの創出
- ・メディアの探求、調査
- ・メディアの操作
- ・美術の要素とデザインの原理の応用
- ・プレゼンテーション

これらが全ての手段ではなく、教師が児童を評定するために選び出す技能は、それぞれの授業の目的によって異なっている。美術の授業は楽しいものにすべきである。評定の焦点となるものは、児童が美術を経験することによって楽しく学習し成長することに手助けするものである。そして児童の生涯学習の手助けとなるものである。

2 初等美術教育の教科書と教材

初等教育の美術の教科書は現在、順次改訂中である。新しい教育課程に基づくものとそれ以前のもので混在している状況にある。2003年現在で、3学年までが新しくなっている。ここでは、3学年までの新しい題材と4学年以降は以前の題材を紹介する。

(1) 新しい教育課程での教科書 1から3学年の題材例

新しい教科書は Shaping Art と題されている^(注2)。題材は教育課程の分類にしたがっており、1学年では、「生きているもの」「場所と出来事」「経験」「伝統」「対象物」に分かれている。2学年では「場所と出来事」「経験」「伝統」「人々と他の生物」「対象物」に分かれている。3学年も2学年と同様なテーマに分かれている。

1学年のそれぞれの主題の題材は次である。「生きているもの」では、私、家族(図1)、友達、顔、ドラムをたたく少年、実物とイメージ(図2, 3)、鳥、昆虫(図4)という題材で、絵や立体で表すようにしている。「場所と出来事」では、通学、遊びの時間、公園での一日、動物園、誕生日(図5)、母の日、独立記念日となっており、絵や立体で表現する。「経験」では、色の発見、カラフルな夕食、ティッシュペーパーで遊ぶ、玩具で遊ぶ、コンピューターで描く、手と足を使って描く、散歩という題材である。「伝統」では、祭、ハリヤプアサ(イスラムの祭)、ドラゴンボート祭、ランタン祭となっておりシンガポールの中系、マレー系の祭と行事からなっている。絵と工作で表現する。「対象物」では、形、面白いテレビ、大きなもの小さなもの、お面からなっていて形に対する興味付けの題材となっている。

2学年では次のようになっている。「場所と出来事」では、新鮮市場、チャイナタウン(図6)、海、未来の街、隣人、となっており、絵と工作で表現する。「経験」では、色の世界、反射するものを見る(図7)、水と遊ぶ、自然探検、プレゼント交換、コンピューターで描く(図8)、となっている。「伝統」では、美術で記録、水墨画(図9)、タイプーサム(インド系の祭)、彫像、お面の新しい表現方法、となっている。「人々と他の生物」では、自画像、友達(図10)、想像の動物(図11)、不思議な動物、生物のモザイク、きれいな葉っぱ、とし、絵や立体で表現する。「対象物」では、不思議なもの、形、パターン、結び、

ペーパーフラワー、傘、となっている。日常の中から美術的な素材を発見し作ってみることを促している。

3学年では次のようになっている。「人々と他の生物」では、人やものの動きとして針金での彫刻、動いている人の絵、コラージュによる人の動きの表現(図12)、粘土による人の動作の表現、絵の具と絵画表現、針金と紙粘土による動きのある動物の表現などの題材がある。「対象物」では、美術作品を見ること、クレヨン遊び、古い靴を観察して連想する(図13、14)、色のリボン(図15)などがある。「経験」では、雨の日と晴れた日を絵で表す、窓越しの風景を絵やデザインする、シンガポールの風景を描くなどの題材がある。「伝統」では、想像上の動物、象徴的な色などがあり、マーライオンのような想像上の動物から連想させている。「場所と出来事」では、特別な行事、感覚と表面、宇宙都市の題材で創造的な表現を促している。

これらは新しい教育課程のもとで編纂されているが、基本的には以前の題材を継承しながら、児童の生活感覚を重視している。

さらに新しい小学校の教科書として上記のもの以外に、I'm Creativeと題するものも現在2学年まで発行されている^(注3)。新しい教育課程に基づくものであるから基本的には前述の教科書と同様である。以下に内容の紹介をする。

1学年では、テーマが「私自身」「家族と友達」「街の線と形」「自然の線と形」「どのように感じる?」「色の楽しさ」となっている。それらのテーマの下に題材がある。「私自身」では、色々な顔の絵、コラージュによる顔の表現、等身大の自分の絵を描く、の題材がある。「家族と友達」では、家族の写真を見よう、粘土で家族を作る、動いている友達の絵を描く、の題材がある。絵と粘土で表すようにしている。「街の線と形」では、建物を見よう、廃材で建物を作る、コンピューターで街の線と形を描く、という題材がある。絵と工作とコンピューターで表現する。「自然の線と形」では、自然の中から線、形、色、テクスチャーを探す、植物での版、自然材でのコラージュ、自然の線と形をコンピューターで描く、となっている。「どのように感じる?」では、テクスチャーを見る、卵容器による動物作り、色とテクスチャーの絵の具遊び、飾りふさ作り、の題材がある。テクスチャーの学習となっている。「色の楽しさ」では、デカルコマニーの技法、ぼかしやにじみの技法、美術作品の中の色、コンピューターによる色作り、の題材で色彩の学習である。この教科書では教育課程のテーマとは少し異なっているが従来の題材を継承しているものが多い。

さらに2学年の教科書では、テーマは「海底の世界」「荒さと滑らかさ」「ペットと動物」「お祝い」「顔」「物語のキャラクター」となっている。「海底の世界」では、水族館の絵を描く、コラージュで作る、モビールを作る、コンピューターで水族館を描く、という題材になっている。シンガポールの人々にとってセントサ島での水族館は有名な観光名所となっているので、ほとんどの子どもたちには馴染みのある対象である。「荒さと滑らかさ」はテクスチャーの学習である。ザラザラとツルツルというようなテクスチャーの認識、フロッタージュでテクスチャーを擦りだす、テクスチャーのある材料での織物をつくる、コンピューターでテクスチャーのある画面をつくる、といった題材がある。「ペットと動物」では、絵に表す、粘土で作る、紙のレリーフのような工作で表す、という題材からなっている。絵、彫刻、工作、デザインの全ての領域にわたっている。「お祝い」では、各民族のお祝いの行事を認識する、花火を描く、紡ぎ糸でパターンを作る、の題材からなっ

ている。「顔」では、横顔の絵をシルエットで描く、紙粘土で顔を作る、顔のモビールを作る、コンピューターを使って輪郭線で描く、という題材がある。「物語のキャラクター」では、異文化の人形劇を知り、指人形を作ったり、アニメのキャラクターを描いたり、指紋を利用したイラストの題材がある。

(2) 1992年の教育課程における初等教育の内容構成 4から6学年

ここでは美術工芸教科の学習領域と配分比を次のように定めている。絵画(30%) デザイン(20%) 立体(15%) 工作(15%) 美術鑑賞(20%)。さらに各学年の全体テーマを設定し児童の発達段階を考慮している。全体テーマは次である。第1学年—自分自身、第2学年—家族、第3学年—学校、第4学年—隣人、第5学年—シンガポール共和国、第6学年—すばらしい世界。

4学年では、題材は以下のようなものがあげられている。「隣人のお誕生日会」「小物入れ」「隣の人々」「凧」「コミュニティー・センター」「私の近所」「歯医者さん」「提灯」「バス停」「盆栽」「牧場」「操り人形」「中国歌劇」「近所の地図」「クレヨン・バティック」「近所の建物」などがある。鑑賞の題材では「児童の作品」「美術家の作品」「自然のデザイン」「地域の建物」「人工的なデザイン」などがある。

5学年では、表現の題材としては、「ダンス」「パターンとラッピング・ペーパー」「シンガポールの繁華街」「凧」「地域の文化と祭」「ナショナルキャンペーンのポスター」「船」「ミニチュア・ガーデン」「独立記念日」「セントサ島への旅」「働く人々」「提灯」「シンガポールの建物」「動物園」「影絵・ワヤンクリ」「シンガポールの地図」「マーライオン」「簡単な織物」「ペーパー・バティック」「紐染め」などである。鑑賞では「カリグラフィー」「地元の画家の作品」「フォート・カニング・パークの彫刻」「シンガポールの画家の作品」「子ども達の作品」「伝統的工芸」などである。

6学年では、表現の題材に、「国防」「芋版」「東南アジアの舞踊」「凧」「西暦2000年」「レタリング」「東南アジアの伝統的な家」「生花」「海底探検」「ポスター」「祭日」「動く玩具」「私たちの世界」「乗物」「美しい写真」「未来の生物を創造する」「東南アジアの地図」「創造的彫刻」「世界のお面」「宇宙の旅」「バティック」「ロボット」などがある。鑑賞では「児童の作品」「子ども達の芸術作品」「国内外の芸術家の作品」「シンガポールの壁画」「アジアの国々」などがある。

このように初等教育の内容は、表現と鑑賞の2つの領域で成り立っている。表現の領域での特徴として考えられることは、テーマに社会性があることと、シンガポールという国への意識である。子ども達の社会的で身近な題材を取り上げて、絵に表したり立体にしたり、デザインをしたりすることを促している。こうしたテーマはシンガポール国民としてのあり方を美術教育を通して理解させようとしていると考えられる。それは美術教育が単に造形的な領域にとどまって、純粋に美術の表現だけで美術教育を位置付けるのではなく、社会との関わりを意識させ美術文化と社会の関係を意識させようとしていると考えられる。

3 方向性と考察

シンガポールの新しい教育課程の特徴は一言で言えば美術教育の創造性への志向である。以下には、この新しい教育課程と教科書の特徴を述べる。

(1) 創造性への志向

従来の教育課程や教科書が国民文化の創造のために多文化の融合を強調していたのに対して、新しいそれは、人間と美術の関わりからくる造形的創造性や創造的態度の育成を重視している。その方法は、身の回りに興味関心をもつことから始め、視覚的情報を収集し、整理、再組織するという分かりやすい段階を踏まえたものを提示している。また、制作の段階ではアイデアを出すために様々な表現媒体を使用し、試行錯誤することを勧めている。そして作品の試作段階でのヴァリエーションを多数例示してアイデアの創出を促すようにしている。このことは従来の技術技法の習得を中心とした定型的な授業の進め方とは異なり、児童が主体となって表現活動を行うことを奨励するものである。

(2) 造形原理の重視

造形要素と視覚言語を教育の方法として重視している。従来もその傾向はあったが、従来の題材はテーマが決められており、テーマのひとつとして造形要素や視覚言語の学習というものが若干触れられていた。新しいものでは制作の方法として造形要素と視覚言語を採り入れ応用しようとするものである。このことは電子媒体が日常的に普及し、コンピューターを使用した表現と伝達という電子情報化社会の到来によるものである。特に伝達、通信に関しては、画面を創造する上でデザインの原理が多用される。その基礎として造形要素と視覚言語の学習が位置づけられていると考えられる。

(3) 電子媒体の利用

造形的表現手段のひとつとして電子媒体を採用している。これはいわゆる造形の限定的要素である平面と立体に加えて電子媒体を同じレベルで扱うものである。実材を使用してきた従来の美術教育の表現媒体に加えて、電子画面上の表現を追加したのである。筆と絵の具で絵を描かなくても、コンピューターで画面に描ければよい、という考え方である。この考え方については賛否両論がある。

(4) 主題設定の特徴

従来、初等教育段階では発達段階による児童の認識の広がりをもとに主題設定の基準にしていたが、新しい教育課程では発達段階を厳密に意識しないでどの段階においてもいくつかの主題を設定しておいて、児童と美術の関係に応じて美術活動を進めるようにしている。そして主題は「人物と静物」「場所と出来事」「伝統と文化」といった児童の外側の社会に存在するものと、「興味ある対象」「経験」といった児童の内面に存在するものが混在して表現活動の根拠となるものに多様性を持たせている。

以上のように、シンガポールの新しい教育課程は従来から大きく変化してきている。文化の伝達、継承という側面が強かった従来の教育内容に比べ、児童の能力を引き出し、創造的態度を育成しようとしている。このことはわが国でもすでになされていることではあるが、シンガポールは創造性を育成するための手段を視覚言語という明快な媒体を用いている。初等教育段階でのミニマムエッセンシャルとして位置づけている。

こうした方向性は国民文化と国際性のはざままで試行錯誤しながら選択してきた結果である。加えて情報化社会での美術教育の存在意義を位置づけようとしている。初等教育はそ

うした方向性の基礎段階なのである。

付記

本稿は、国立教育政策研究所の「教科等の構成と開発に関する調査研究」に基づいて作成した「図画工作・美術のカリキュラム改善に関する研究－諸外国の動向－」において、筆者が担当したシンガポールの報告書に加筆したものである。

注

- 1 Curriculum Planning and Development Division, Ministry of Education, Singapore ART AND CRAFTS SYLLABUS Primary 2002
(<http://www1.moe.edu.sg/syllabuses/>)
- 2 新しい教科書は以下のものである。
 - ・Imants Krumins, Linda Chee, Shaping Art for Primary 1, Oxford Univesity Press, Singapore 2001
 - ・Imants Krumins, Linda Chee, Shaping Art for Primary 2, Oxford Univesity Press, Singapore 2001
 - ・Imants Krumins, Linda Chee, Shaping Art for Primary 3, Federal Publications, 2003
- 3 以下である。
 - ・Robyn Mann, I'm Creative 1, Pan Pacific Publishing, 2002
 - ・Robyn Mann, I'm Creative 2, Pan Pacific Publishing, 2002

図版出典

- 1 Imants Krumins, Linda Chee, Shaping Art for Primary 1, Oxford Univesity Press, Singapore 2001 p6 Lina Marlina Bte Othman 作
- 2 同上 p18
- 3 同上 p19
- 4 同上 p24
- 5 同上 p39
- 6 Imants Krumins, Linda Chee, Shaping Art for Primary 2, Oxford Univesity Press, Singapore 2001 p5 Cheryl Seah Yi Tyng 作
- 7 同上 p20 C Krumins 作
- 8 同上 p32
- 9 同上 p39 Egoon Peggon 作
- 10 同上 p57
- 11 同上 p65
- 12 Imants Krumins, Linda Chee, Shaping Art for Primary 3, Federal Publications, 2003 p4
- 13 同上 p35
- 14 同上 p37
- 15 同上 p45

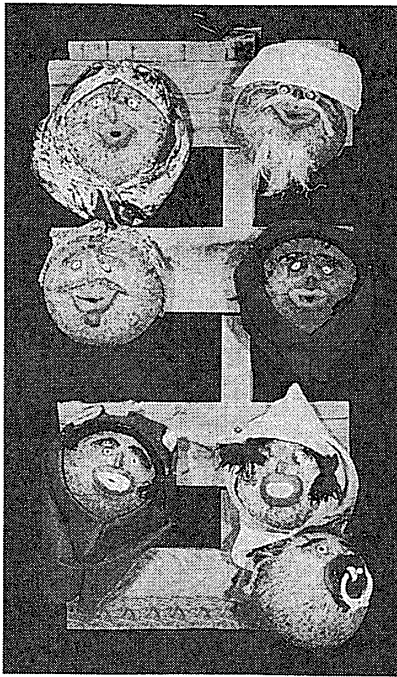


図1 「家族」(ヤシの実を利用した立体作品)

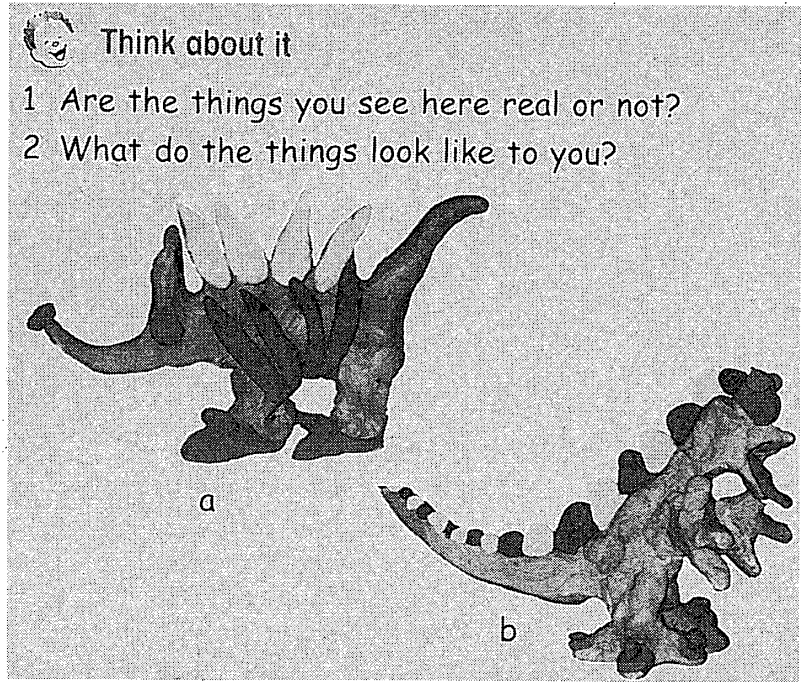


図2 「実物とイメージ」(粘土で作った動物)

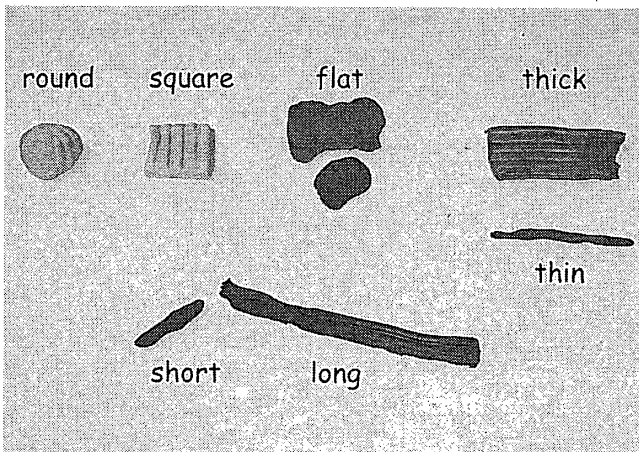


図3 粘土による形の種類の例

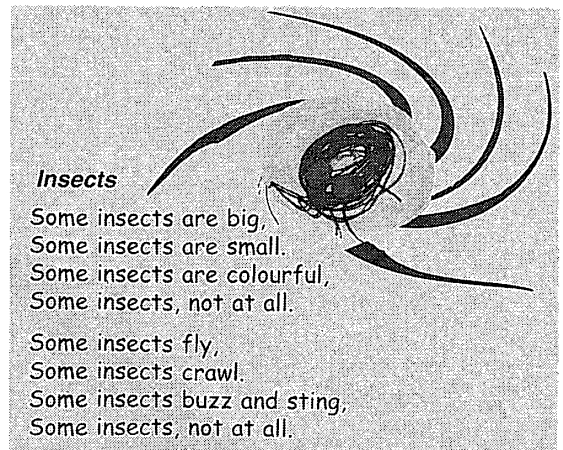


図4 「昆虫」(昆虫のイメージを様々な観点で捉える)

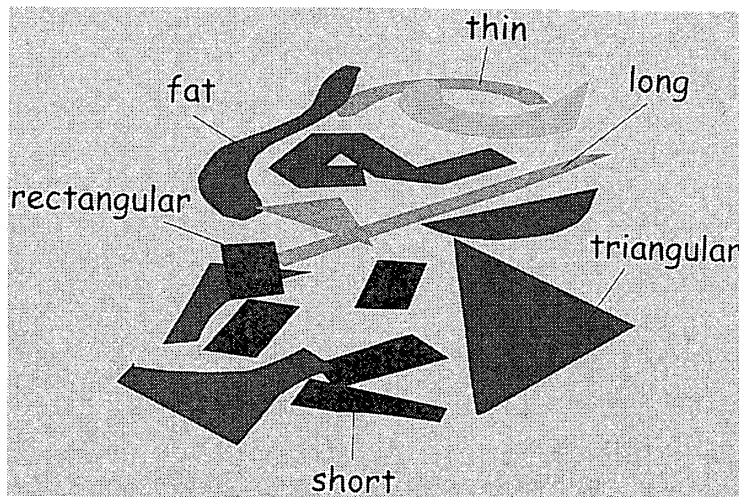
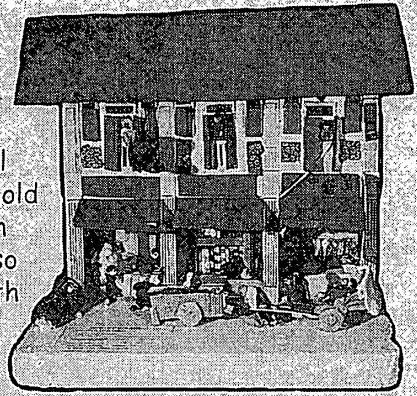
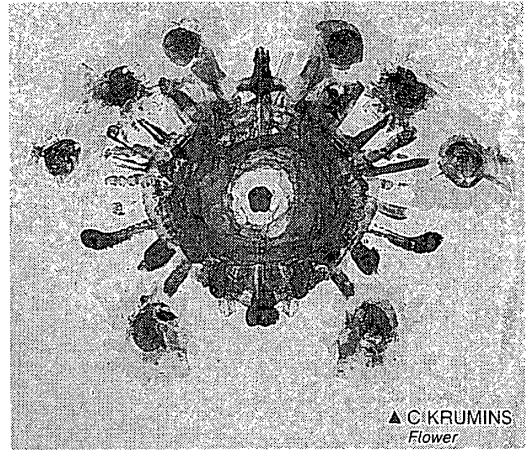


図5 「誕生日」(色紙を使ってデザインする。形の種類を知る。)

Look for more pictures of Chinatown in library books or in postcards. A model of a shophouse of old Chinatown is shown here. You could also visit Chinatown with your teacher.



▲ CHERYL SEAH YI TYNG
Chinatown



▲ C. KRUMINS
Flower

図6 「チャイナタウン」(身近な環境を知って作品を表わす)

図7 「反射するものを見る」(反射の原理の応用としてのデカルコマニーの例)

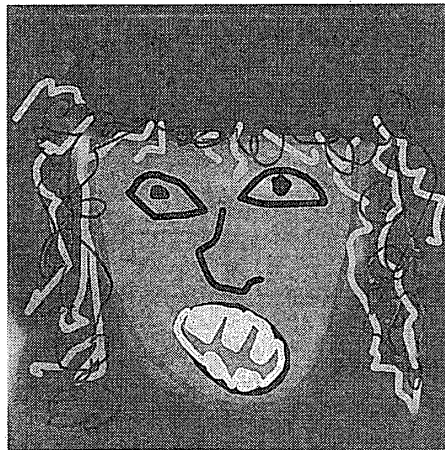


図8 「コンピュータで描く」(コンピュータで顔のデコレーションをする例)

Here is an example of Chinese ink painting.

- 1 What is the painting about?
- 2 The artist has put in some details like eyes. What has the artist used to put in the details?



EGOO PEGGON ▶
Little cat

図9 「水墨画」(児童作品例)

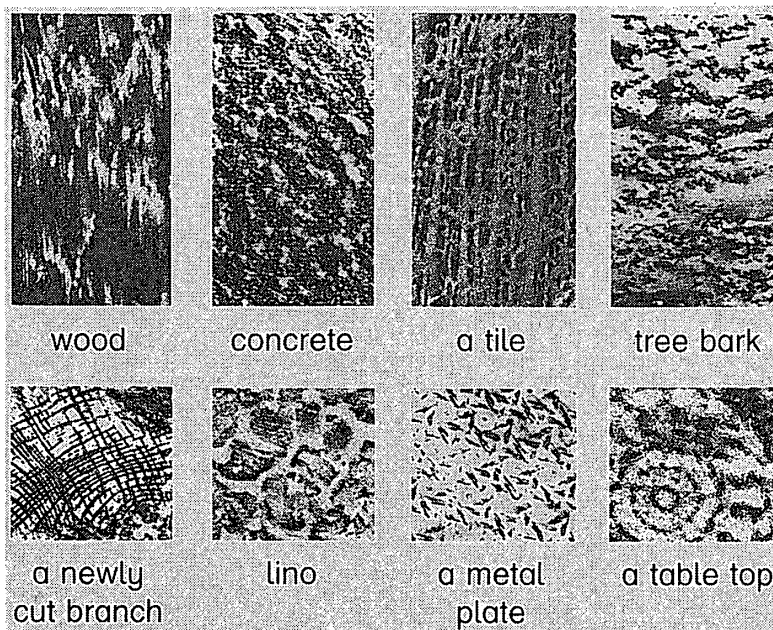


図10 「友達」(テクスチャの経験の例としてのフロッタージュの種類)

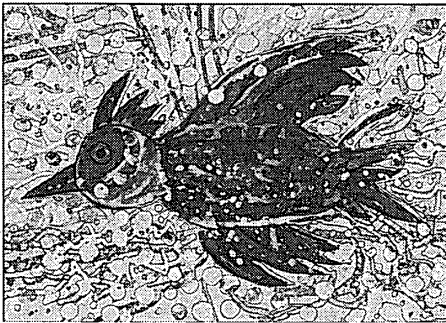
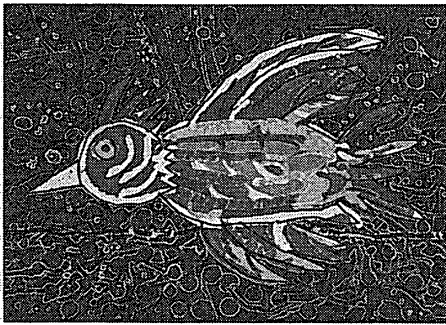
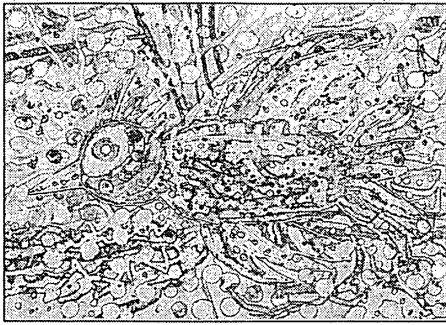


図11 「想像の動物」(コンピューターによるヴァリエーションの例)

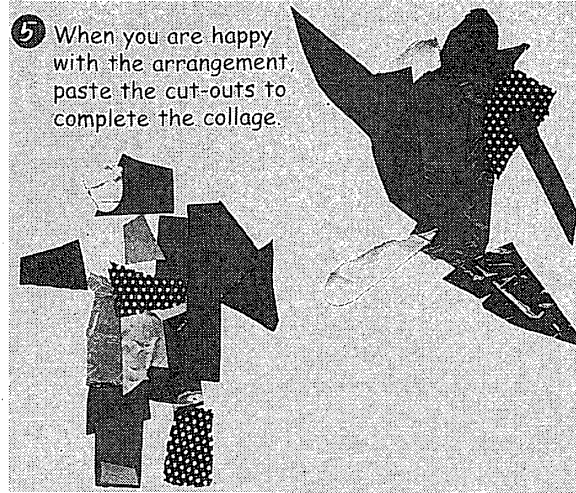


図12 「コラージュによる人の動きの表現」(いろいろな材料を使った例)

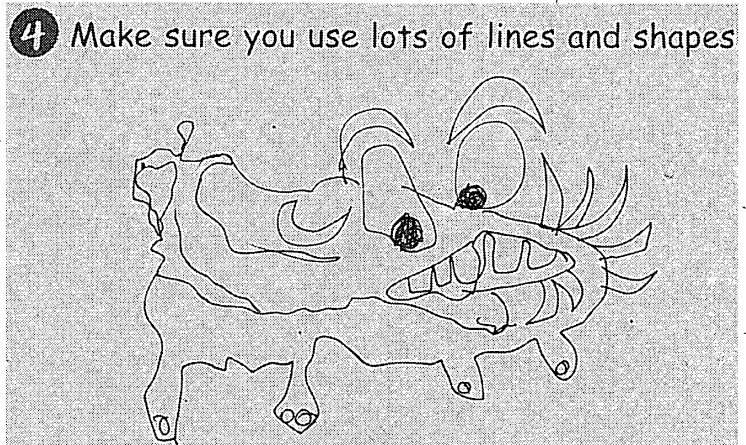


図13 「古い靴を観察して連想する」

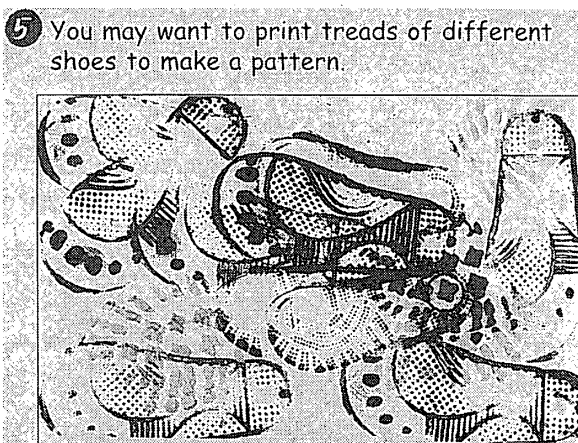


図14 「靴底によるパターン」

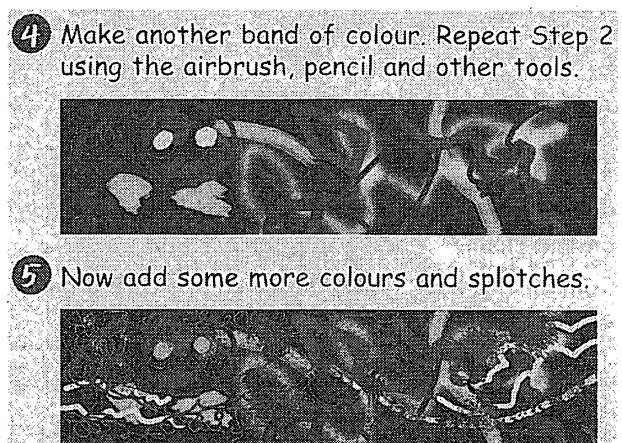


図15 「色のリボン」(コンピューターによる例)